

言語理解指導は、一般的言語理解力にはわずかな効果があるが、読解力にはほとんど効果がない



言語理解介入プログラムの全体的な目的の一つは、子どもの語彙力の発達を促進することである。

#### このレビューの目的は何か？

このキャンベル系統的レビューでは、言語理解指導が言語理解力および読解力の一般化された測定値に及ぼす影響を検討している。このレビューでは、就学前と学齢期の参加者のサンプルを含む43件の研究からのエビデンスが要約されている。

このレビューに含まれている言語理解プログラムは、言語理解の一般化された結果に小さなプラスの即時効果を示している。一般化された読解力の指標に対するプログラムの効果はごく僅かである。参加者の追跡評価を報告している研究はほとんどない。

#### このレビューの目的は何か？

熟達した言語能力を持って学校に通い始めた子どもは、幼少期に言語能力が不十分な子どもよりも、適切な読解能力を身につけ、学業上の成功を収める可能性が高い。

個人的な言語障害、社会経済的地位に関連する環境要因、および第二言語としての教育言語を持っていることは、すべて言語および識字能力の障害の危険因子と考えられている。介入プログラムは、リスクのある子どもたちの言語能力を支援することを目的として設計された。これらのプログラムでは、指導方法は一般的に、読み聞かせや黙読の文脈の中での語彙指導に重点を置いている。物語や文法の発達を直接活性化させる要素が含まれていることが多い。

このレビューでは、言語支援プログラムが効果的か否かを検討している。より具体的には、言語支援プログラムが言語理解と読解力の一般化された測定値に及ぼす直接的および長期的な効果を検討することを目的としている。

#### このレビューにはどのような研究が含まれているか？

このレビューには、言語理解介入が一般化した言語および読解の結果に及ぼす影響を評価する研究が含まれている。合計43件の研究が特定され、最終的な分析に含まれている。研究は1992年から2017年までの期間にわたっている。対照群とプリ・ポストデザインを用いた無作為化比較試験および準実験がレビューに含まれている。



### このレビューはどれぐらい最新のものか？

レビュー作成者は2018年10月までの研究を調査している。

### キャンベル共同研究とは何か？

キャンベル共同計画とは、系統的レビューを公表する、国際的、任意的、非営利的な研究ネットワークである。本組織は、社会科学や行動科学の領域における取り組みのエビデンスを要約し、その質を評価している。本組織の目的は、人々のより良い選択とより良い政策決定を支援することである。

### この要約について

本要約はCampbell Systematic Reviews. 2019; 15:e1059 “The effect of linguistic comprehension instruction on generalized language and reading comprehension skills”の著者であるRogde, K, Hagen, ÅM, Melby-Lervåg, M, Lervåg, A.に基づいている。

この要約の作成のためのアメリカ研究機関からの財政支援に感謝の意を表す。

### このレビューの主な知見は何か？

言語理解能力の一般的な結果に対する言語理解指導の効果は、全体的な即時効果とフォローアップ効果の両方の研究において小さい。異なる言語の成果の分析では、語彙と文法知識に対する効果は小さく、物語理解と聴解力に対する効果は中等度であることが示されている。

言語理解指導は、読解の一般的な結果には即効性はない。また、読解力のフォローアップ効果を報告している研究はごくわずかであり、結果は多様である。

### このレビューの結果は何を意味するのか？

言語理解教育は、子どもの一般的な言語理解能力を向上させる可能性がある。しかし、言語理解指導の言語理解力への効果を調べるために用いられる評価基準の種類によって、効果にはばらつきがある。

言語理解介入プログラムの全体的な目的の一つは、子どもの語彙発達を促進することである。その結果、本レビューに含まれるタイプの介入プログラムでは、子どもの語彙発達を促進し、子どもの語彙格差を縮めるには不十分である可能性があることが示された。

さらに、介入プログラムが読解力に即効性を示さなかったことから、本研究で検討したタイプの介入プログラムによる言語理解指導は、一般的なタイプのテキストから学ぶべき内容を超えることはないことが示唆される。言語理解が読解力の発達に重要な役割を果たしていることが縦断的研究から明らかにされているにもかかわらず、一般的な読解結果に即効性とフォローアップ効果をもたらした介入研究はごくわずかである。このことは、読解障害の予防や改善には長期的な教育的努力が必要であることを示している。

最後に、目標とした介入(テキストでのターゲットを絞った指示語の使用)とより密接に関連した他の評価基準を用いれば、異なるパターンの結果が得られる可能性が高いと考えられる。しかし、そのような研究は本レビューには含まれていない。



AMERICAN INSTITUTES FOR RESEARCH®